

C a t c h

イベント案内

○県立図書館の日

11月20日(金)。講演会、ストリート・パフォーマンス、体験
電子図書館、書庫開放、わくわくおはなし箱などの各種催し。
郷土学習会・甲府市北部の史跡めぐり

○展示「山岳資料展—山と生きる—」

12月24日(木)まで。1階ロビーにて。
山に関する資料を、4つのテーマに分けて紹介します。



1998/11 第3号

としょかんりよう 図書館利用カレンダー

11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	②	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
8	⑨	10	11	12	13	14	6	⑦	8	9	10	11	12
15	⑬	17	18	19	20	21	13	⑭	15	16	17	18	19
22	⑮	24	25	26	⑰	28	20	⑱	22	⑳	24	25	26
29	⑳	31					⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	

○印は休館日

レファレンスファイル

ー調査相談カウンターよりー

レファレンス・ツールの紹介

調べものや研究の時に役立つ資料を紹介します。



寛政譜以降旗本家百科事典 全6巻

小川恭一編著 東洋書林 <281.03 枳*>

江戸時代の幕臣の経歴を調べるとき、寛政10年までについては、『寛政重修諸家譜』により系図を見ることができ、また、各家系の由緒、人物の略伝・業績などを調べることができます。ところが、それ以降から慶応4年までの70年間については、『江戸幕臣人名事典』などで断片的な情報を得ることはできますが、その人の家系まで判断するのは非常に困難でした。この本は、いままで調べるのが難しかった『寛政重修諸家譜』以降の旗本について、単に個人の履歴だけでなく、その人物の家系ごとに編集したもので近世史を研究する人たちにとっては、待望の資料と言えるでしょう。

消費者教育事典

消費者教育支援センター編 有斐閣 <365.0 33>

消費者問題は、1960年代以降、製品安全問題については改善されてきましたが、近年では契約や悪質商法に関わる問題が増えています。インターネットなど電子商取引での被害など、消費者問題が多様化・複雑化している現在、これまで以上に消費者一人一人の自覚が大切になり、学校や生涯学習の場における消費者教育はますます重要なものになっています。この本は、消費者教育を理解したり、指導を行う際に必要となる用語を収集し、「教育一般・学習方法」「広告・表示」「金融・保険」など17の項目に分けて解説したものです。参考文献もあげられているので、基本的な調査の糸口として役立つと思います。



県立図書館の日の催し案内

- ☆講演会：「薄田泣菫が見た一葉姉妹」 江宮隆之氏（『白磁の人』著者）
- ☆ストリートパフォーマンス：汎マイム工房によるパントマイム
- ☆体験 電子図書館：インターネット・山日データベースによる資料検索紹介
- ☆わくわくおはなし箱：たのしいおはなし・てあそび
- ☆書庫の一般開放：普段直接利用できない書庫を開放します。
- ☆郷土学習会：「北山野辺道を歩くー甲府市北部の史跡めぐりー」

レファレンス事例の紹介

県立図書館の調査相談カウンターに寄せられた質問や相談の中から紹介します。

質問要旨 平成10年4月2日付の「読売新聞」の「編集手帳」に紹介されたバルト・ムイヤールトの「本をひらけばふしぎな世界」という詩の全文を知りたい。

調査の経緯

- ①依頼者側の調査ではバルト・ムイヤールト作『調子っぱずれのデュエット』のあとがき等を調べたが不明とのこと。自館システムで「ムイヤールト」を辞書（著者名）検索するが、他の資料なし。
- ②平成10年4月2日付の「読売新聞」の「編集手帳」をみると、4月2日は国際児童図書評議会が制定した「国際子どもの本の日」で、紹介されているのは、バルト・ムイヤールト作の“メッセージ”であると記載。
- ③「JBBY」のバックナンバーを調べると、平成10年2月号（No.86）の「IBBYニュース」の項に「1998年国際子どもの本の日」として、バルト・ムイヤールトのメッセージなどの紹介あり。

回答

「JBBY」平成10年2月号（No.86）の「IBBYニュース」の項に掲載あり。

調査にあたって

当初、普通の詩だと思い、バルト・ムイヤールトの作品を探すことにしたが、見つけれなかった。「読売新聞」の「編集手帳」を見てみると、「国際子どもの本の日」の“メッセージ”とあるので、JBBY（日本国際児童図書評議会）の会報のバックナンバーを見ていくと見つけることができた。JBBYは1974年に設立された、IBBY（国際児童図書評議会 1953年設立）の日本における窓口である。IBBYはアンデルセンの誕生日4月2日を「国際子どもの本の日」と定めた。加盟国は順番にポスターとメッセージを作成しており、1998年はベルギーが担当、メッセージは詩人のバルト・ムイヤールト、ポスターはガブリエル・ヴァンサン。

キーワード

- ①バルト・ムイヤールト（ムイヤールト）
- ②本をひらけばふしぎな世界（本をひらけばふしぎな世界）
- ③国際子どもの本の日（国際子どもの本の日）
- ④詩（シ）





くりっぴー —こども室だより—



あたらしい本の紹介



まちこちゃん ふりやかよこ作・絵 ポプラ社〈E マチ〉

小学生になって、少し大人びてきたまちこちゃんに、おさななじみのぼくは、とまどってしまう。ほんとうは、ぼくが一番まちこちゃんのことを知っているのに…。二人のほほえましい心のやりとりが、美しい絵の中に、少ない言葉で表現されています。【小学校低学年向け】

ぼくのおとうさんははげだぞ

そうまこうへい作・絵 架空社〈E ボク〉

おとうさんははげているけれどハンサムでかっこいい。やさしいし、なんでもできる。作者の、こどもが小さかった頃を思い浮かべながらの創作で、温かなユーモアに満ちた作品になっています。『ぼくのおかあさんはでぶだぞ』『なかよし』ほか家族をテーマに描かれています。【幼児・小学校低学年向け】



トイしまちがえちゃった！

ルイス・サッカー作 唐沢則幸訳 矢島真澄絵 講談社〈933 サツ〉

きらわれる前に自分の方からきらうことで、きずつくことなく生きられる……クラスのきらわれ者のブラッドリーは、そう思っていました。ところが、転校生のジェフと知り合い、カウンセラーのカーラーと話すうちに、ブラッドリーの心は変わりはじめます。閉ざされた心が、少しずつひらいていく過程や、どこにでもありそうな学校生活が、自然に描かれています。【小学校中高学年向け】



その時ぼくはパールハーバーにいた

グレアム・ソールズベリー作 さくまゆみこ訳 徳間書店〈933 リル〉

ぼくはハワイで生まれた日系人だ。日本軍の、パールハーバー攻撃前後のハワイを舞台に、悩みながらもたくましく生きる、少年トミカズの目を通して描いた、日本とハワイ。戦争の日々。

【小学校中学年向け】



外国図書がいこくとしょの紹介しょうかい

こども室には英語で書かれた絵本えほんもあります。日本語で書かれたものにほんごとくらべながら読んでみませんか。

The Happy Owls <E HA> / しあわせな ふくろう <E 77> セレスティーノ・ピアッティ絵 オランダ民話



むかし、くずれかけた岩壁いわかべに、ふくろうの夫婦がすんでいました。ふくろうたちは自然と共に静かにくらしていました。そしてそれがとても幸せだと思っています。ところが、人に飼いならされ、自分で努力することを忘れた鳥たちには、その幸せが理解できません。……春、木の芽がでて、つぼみがふくらむ。夏、ひまわりが咲き、緑が濃くなる。秋、クモがでてきて巣を作る。そして冬、真っ白な雪。巣の中で冬を過ごす。今日もまた静かな幸せ。

★ポイント

幸せという基準きじゅんがあいまいな現在に、改めて幸せとはどういうことなのか、ごく自然に見つめることができます。絵の構成が非常に力強く、重厚な色調が美しい本です。

★作家紹介

セレスティーノ・ピアッティ (Celestino Piatti) は1922年、スイスに生まれ、商業デザイナーとして活躍しています。広告、イラスト、パッケージ・デザイン、ポスター、ウインドディスプレイなど、あらゆる商業デザインの分野で頭角をあらわし、多くの賞も受賞しています。

—児童図書研究コーナーより—

子供の本や子供の読書について調査研究をしたい人のために、研究書などの資料をそなえてあります。貸出もできます。

幸福の書き方 清水真砂子著 JIC出版局 <909 33>

人間とはなにか？ 幸福とはどういうことをいうのか。さわやかに生きるにはどうしたらよいのか。生きることへの質問にこどもの本を通して答えている入門書。

原爆児童文学を読む 水田九八二郎著 三一書房 <909 33>

本当にあったこと、忘れてはならないこと、二度とあってはならないこと、原爆について伝えていかなければならない思いを、15編の作品を中心に作家案内・モデル等についてまとめたもの。



Book Review

—新刊案内—



水中考古学への招待 井上たかひこ著 成山堂書店〈202.5 円〉

ツタンカーメン王のもとへ向かう途中だった(?)世界最古の難破船、地震と津波によって沈められた海底都市ポート・ロイヤル……。世界の海底には、今なお謎につつまれた数多くの遺跡が眠っています。日本の周囲の海にも遣唐使船や御朱印船などの遭難沈没の歴史がありますが、「水中考古学」はまだ日本では正しく認識されていません。この本は、著者が実際に参加・体験した海底探検の記録。わくわくするような夢や冒険心がいっぱいです。



インカ帝国の虚像と実像 染田秀藤著 講談社〈268 円〉

16世紀、地球の裏側、南米のアンデス山脈の西に広がったエルドラド、インカ帝国。征服者のピサロや、マチュピチュなどの巨大巨石遺跡に象徴される謎と神秘が心をかき立てます。この本はイエズス会の伝道師や冒険家らが書き残した記録（クリニカ）から、どのような経緯で現在のイメージが作られていったかを明らかにし、そこから誤解や虚構部分を丹念に排除し、真の帝国像に迫る研究書です。



なぜ日本人は日本を愛せないのか

カレン・ヴァン・ウォルフレン著 大原進訳 毎日新聞社〈302.1 円〉

世界的ベストセラーとなった『日本／権力構造の謎』の著者が、日本人と日本の社会的・政治的構造との関係を考察してきた中で贈る、日本人へのメッセージ。人々は風に舞う木の葉のように社会的環境にただ翻弄されているべきではなく、その向上を目指して努力すべきだと信じ、日本人がより幸福な人生を送るための最大の障害物、自分の人生を自分でコントロールできなくしているものを検討した本です。



チョコレートの本 ティー・タム・ブックス編集部編 晶文社〈383.8 円〉

ココアが体によいとブームになり、お菓子メーカーが売り切れのお詫びを新聞に掲載したのは、ついこの間のことでしたが、18世紀に植物学者リンネによって命名されたカカオの学名は「神々の食べ物」というものでした。ある時は万能薬として、ときには貨幣として使用されたこともあるというチョコレートは、古代アステカの時代から今日まで、多くの人々を惹きつけてきました。チョコレートの歴史や、愛好家たちの文章などが掲載された楽しい文化誌です。



1998年度国際アンデルセン賞 (1)

今年度の国際アンデルセン賞は、25人の候補者の中から作家賞には、キャサリン・パターソン氏(アメリカ)、画家賞にはトミー・ウンゲラー氏(フランス)が選ばれ、1998年9月20日にインドで受賞式が行われました。

こども室に二人の絵本が展示してあります。

今回は画家賞のトミー・ウンゲラー氏について紹介します。

☆☆トミー・ウンゲラー (Tommi Ungerer) ☆☆☆☆☆

『ぶたのメロップス』、『へびのクリクター』や、『たこのエミール』などでわたくしたちにも馴染みの深いトミー・ウンゲラーは、1931年にアルザスのストラスブールで生まれました。父は天文時計のメーカーでしたが、歴史家で発明家であり、そのうえ画家でもありました。トミーが三歳のときに亡くなりましたが、二人の兄と一人の姉を通して、彼は大きな影響を受けたといっています。父の死後、一家は工場をたたんで、コルマールの町の祖母の家に移りましたが、トミーが8歳の時に、第二次大戦になります。その後、ヨーロッパを放浪したりして、1956年アメリカに渡り、ニューヨークに住みました。1957年25歳の時に、病気で倒れそうだったのをハーパース社の編集長のアースラー・ノードストラム氏に、5百ドルを前渡ししてもらい、生まれたのが絵本『メロップス、空をとぶ』だといっています。彼は「わたしがこどもの本をつくるのは、自分のためなのです。わたしの個人的な楽しみなのです。」といっています。他に絵本『月おとこ』『エミールくんががんばる』『ぼうし』『のっぽとちび』などがあります。

作品の特徴は、へび、はげたか、たこ、かたつむりなど絵本の主人公には向きそうにもない生きものを主人公にしていますが、ブラックユーモアを秘め、風刺に富む内容には多くの哲学が感じられます。

☆作品介绍

すてきな三にんぐみ

(THE THREE ROBBERS)

今江祥智 訳 偕成社 <E 行>

盗賊三人組は黒マントに、黒帽子、偶然盗んだ幼いみなし子がかわいくなって、それから不幸な子どもを盗み集めて育てる。色調の変化が三人組の生きざまの変転をみごとに支えている。印象的な絵本です。



Hans Christian Andersen Award (国際アンデルセン賞)

国際児童図書評議会 (IBBY) により、1956年にアンデルセン賞が創設され、1962年に作家賞、1966年に画家賞が加えられた。2年に1度、永らく子どもの本に貢献してきたと認められる画家の全業績に対して与えられる。

<日本の主な受賞者>

赤羽末吉	1980年
安野光雅	1984年





郷土資料室より

見る山梨県保育史 山梨県立女子短期大学山梨県保育史研究会

・著 山梨ふるさと文庫 <K376ヤマ>



山梨県に最初の幼稚園ができてから、百年あまりが過ぎました。この本は、それぞれの幼稚園・保育園などに大切に保管されてきた資料や、幼児保育経験者からの聞き取りなどをもとに、山梨県全体の保育の歴史をまとめています。タイトルに「見る」とあるように、写真が豊富です。集合写真や、おひるねや体操など日常の保育風景、遠足やひな祭りなどの行事写真などから、明治から戦後までの幼稚園のこどもたちの様子がみてとれます。

死の貝 小林照幸・著 文芸春秋 <K95ヤマ>

日本住血吸虫症は山梨県では「地方病」とも呼ばれています。日本住血吸虫の寄生によって、発熱や下痢、肝硬変や腹水がたまるなどの症状を起こして命を落とすこともある病気です。原因不明の奇病として少なくとも数百年前から苦しめられてきたのですが、近代になって寄生虫が発見され、撲滅対策が行われました。国内最大の流行地だった山梨県を中心に、明治から、平成8年の終息宣言まで、この病に苦悩し、闘う人々を追ったノンフィクションです。



旅心ときめく中央本線—甲斐路の四季

田中五十雄・著 光村印刷 <K74タナ>



中央本線を走る列車の姿を、自然や農村風景を採り入れて撮影した写真集です。この写真集ではここ数年の山梨の風景が撮影されています。電車に乗っていて、またはその近くに訪ねて行ったりして、見知った風景であるはずなのですが、こんなにきれいだったのだろうかと思えます。あらためて、山梨の緑豊かな様子がよくわかる1冊です。

山梨県に関する1冊や雑誌、新聞、ポスターなどを収集しています。
個人で、グループで、職場などで発行されたときには情報をお寄せください。

山梨県立図書館総合情報誌Catch 第3号

平成10年11月

編集 山梨県立図書館 企画協力課 相談サービス担当

発行 山梨県立図書館

〒400-0031 甲府市丸の内二丁目33-1

TEL 0552-26-2586 FAX 0552-26-2528

